



## あらゆる苦悩に目的を見る

愛する者たちよ。あなたがたを試みるために降りかかって来る火のような試練を、何か思いがけないことが起ったかのように驚きあやしむことなく、むしろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど、喜ぶがよい。それは、キリストの栄光が現れる際に、よろこびにあふれるためである。(I ペテロ 4:12, 13)

ある夕方、深い苦悩に陥っていた紳士が庭を歩いていた。そこに彼は幹がほとんど切られているざくろの木を見つけた。非常に驚いて、彼は庭師にどうしてその木はこうなっているのかを聞いた。返ってきた庭師の答えは、彼の傷ついた心に満足を与えるものであった。「旦那、この木は、伸びすぎて葉っぱばかり生い茂って実がつかないんですよ。ですから、このように切らざるをえなくなりました。ほとんど切ってしまったら、実をつけはじめたんです」。

我々の苦悩は、理由なくして出てくるものではない。どんな苦悩の中にも、神は我々の益になるという目的を持っておられる。我々のアイドル(偶像視しているもの)を破壊するあらゆる衝撃も、この地上の支えを弱くし、我々の愛情を神にしっかり結びつけるあらゆる摂理も、それは祝福である。一時は苦痛である。しかし、後になって「平安な義の実を結ばせる」のである。

我々は良心を敏感にするもの、思想を高めてくれるもの、生活を高貴にするものは何であっても、感謝をもって受け取るべきである。実らない枝は切り取られて火に投げ込まれる。剪定という苦痛を通して生きた幹と連なっていよう。なぜなら、キリストと共に苦しむならば、彼と共に支配するからである。

我々の信仰には耐えられないほどの最も激しい試練に会い、神が我々を見捨てられたかのように思える試練そのものが、神に我々を近づけ、すべての重荷をキリストの足元におろし、その代わりに平安を与える経験へと導くのである…。神はその造られた最も弱いものを愛し、保護なさる。まして我々に対する愛を疑うことによって神を侮辱することはできない。暗やみと試練のときに神に信頼する生きた信仰を培おうではないか。

-My Life Today, p. 93より